



渋沢栄一の5W1H

渋沢はいつ・どこに生まれ、どんなことをしたのか？—
さまざまな顔をもつ男の生涯と事績を、「6つの疑問」に
まとめてみました。

Who (誰が)

渋沢は裕福な農家に生まれ、少年期から商才を発揮しました。その後、尊王攘夷思想に触れてその実現を目指しますが挫折、後に「最後の将軍」となる徳川(一橋)慶喜の家臣となり、ヨーロッパを歴訪します。帰国後は明治新政府に請われ官僚として活躍、そして実業界に身を投じていきました。

When (いつ)

1840(天保11)年、ペリーの黒船来航の10数年ほど前に生まれた渋沢は、幕末期と明治維新、その後の明治時代、さらに大正時代を生きぬき1931(昭和6)年に91歳で亡くなりました。

Where (どこで)

武蔵国榛沢郡血洗島村(現在の埼玉県深谷市血洗島)に生まれた渋沢は、生家の商売のため頻りに上州・武州・信州を旅します。江戸幕府の命により、パリ万博を視察、ヨーロッパを旅し、そして維新後の東京で近代日本の発展に貢献しました。

What (なにを)

渋沢が設立や経営に関わった会社には、今でも多くの人を知るものがたくさんあります。たとえば日本で最初の株式会社である第一国立銀行は、現在のみならず銀行がその流れを汲んでいますし、ほかにも東京ガス、王子製紙、帝国ホテル、東京証券取引所、東洋紡など枚挙に暇がありません。

Why (なぜ)

渋沢の事績はあまりに多く、その全貌を見渡すのに苦労するほどです。しかしその一生は、『論語』に影響を受けた「公の意識」と、「官尊民卑の風潮の打破」という2つのキーワードでまとめることができます。

How (どのように)

実業家の渋沢は、たんに自分の利益だけを追求する経営者ではありませんでした。利益追求の背景には、国を豊かにし人々の生活を豊かにするという意識が常に働いていたのです。会社経営は、いわばそのための方策だったといえるでしょう。



渋沢と佐久のつながりは、「Who」で触れた少年期までさかのぼります。13歳のころから生業を担っていた渋沢は、年に4回ほどは信州(長野県)、上州(群馬県)、武州(埼玉県)秩父の得意先を回り、藍玉代の集金や注文取りをしていました。上州から信州への玄関口であった内山峠(内山峠)とそれを越した先の佐久平(佐久盆地)が、渋沢にとって「第二の故郷」であったこともうなずけます。

信州・佐久

内山地区の観光スポットご案内

東京から川越(埼玉県)・藤岡(群馬県)・下仁田(群馬県)を経て佐久市に至る国道254号は、江戸時代には五街道に準ずる「脇往還」のひとつでした。群馬県境の内山トンネルを抜けた佐久市内山地区には、さまざまな見どころが点在します。

A コスモス街道

内山地区を貫く国道254号は、「コスモス街道」の異名をもつフラワーロードです。見ごろとなる9月には国道沿いにたくさんのコスモスが咲き誇り、ドライバーの目を楽しませてくれます。また沿道の休憩所では地元農産物の販売が行われます。



花咲き誇るコスモス街道

B 園城寺・長福寺

コスモス街道を見下ろす高台に位置する園城寺では、7月にはあじさいが、8月下旬~9月中旬には萩が境内を美しく彩ります。また鎌倉時代の建立といわれる長福寺は、本堂の裏手にある願かけ百体地藏尊が有名です。



あじさいの季節の園城寺

C 内山牧場キャンプ場

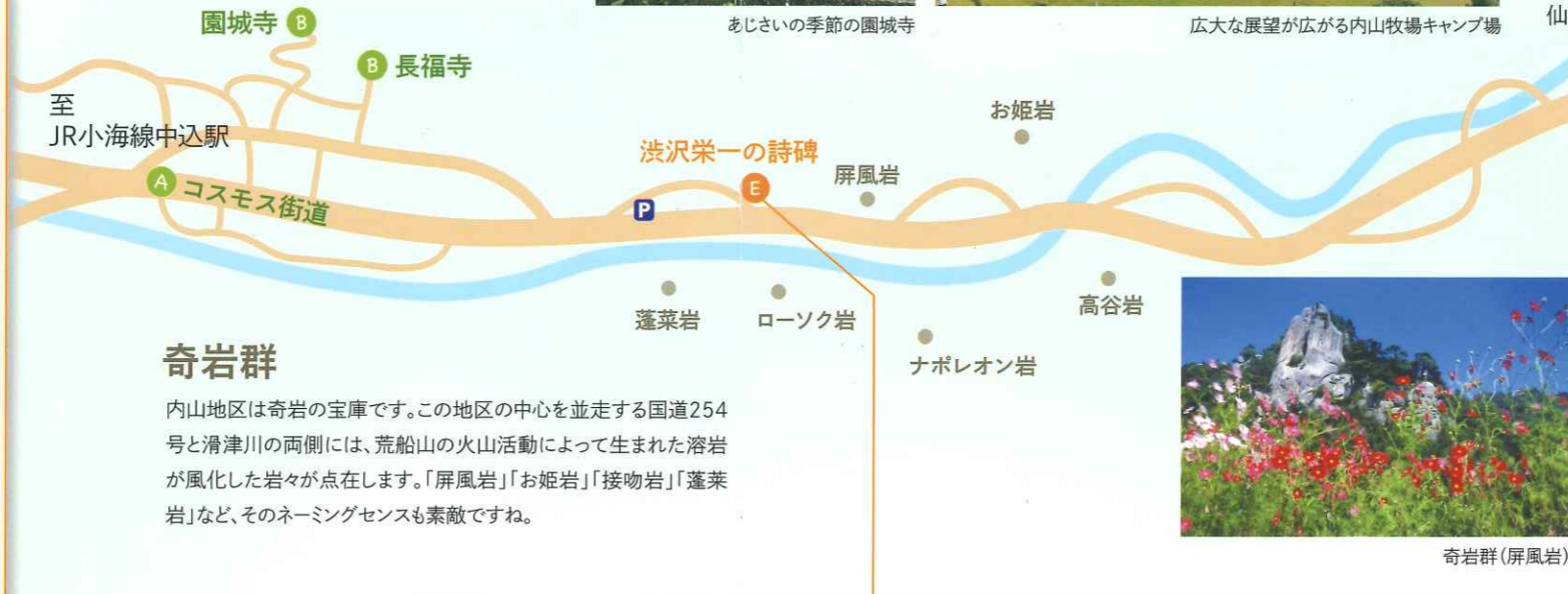
荒船山や八ヶ岳連峰など、360度の絶景パノラマが楽しめるオートキャンプ場です。テントを100張以上も張れる広大な芝の敷地では、季節を楽しむ花々や満天の星空を楽しむことができます。



広大な展望が広がる内山牧場キャンプ場

D 荒船山・荒船風穴

高低差200メートルにもなる断崖絶壁の巖(ともいわ)が特徴的な荒船山は、群馬県と長野県の県境にあります。その荒船山の下の仁田町側に位置する荒船風穴は、この地の一大産業であった養蚕に用いられたもので(蚕種貯蔵風穴)、世界遺産「富岡製糸場と絹産業遺産群」の一角を占めています。



奇岩群

内山地区は奇岩の宝庫です。この地区の中心を並走する国道254号と滑津川の両側には、荒船山の火山活動によって生まれた溶岩が風化した岩々が点在します。「屏風岩」「お姫岩」「接吻岩」「蓬菜岩」など、そのネーミングセンスも素敵ですね。



奇岩群(屏風岩)



圧倒的な存在感の荒船山

E 渋沢栄一の詩碑



群馬側から国道254号沿いに車を走らせ、ちょうど奇岩群を見終えたころ、右手に神社の鳥居が見えてきます。その阿夫利(あふり)神社の横の岩肌に、「青天を衝け」の由来となった漢詩が刻まれた詩碑がひっそりとたたずんでいます。この漢詩は渋沢が19歳のころに詠んだものとされ、全文およそ260字。比較的短く、また意味もとりやすいので、全文解説に挑戦してみましょう。なお、この詩碑は1940(昭和15)年に地元有志により建てられました。詩碑から約400mの距離に臨時駐車場(普通車20台収容、大型バス駐車可)もあります。

※臨時駐車場は、令和3年2月から令和4年1月を予定

漢詩の一部を声に出して読んでみましょう!

〔原文〕 勢衝青天攘臂躋 気穿白雲唾手征
〔読み下し文〕 勢いは青天を衝き、臂を攘いて躋る 気は白雲を穿ち、手に唾して征く
〔現代語訳〕 青天をつきさす勢いで肘をまくって登り、白雲をつきぬける気力で手に唾して進む

大河ドラマ「青天を衝け」(NHK)

毎週日曜日
総合 午後8時/
BSプレミアム・BS4K 午後6時
主演:吉沢亮(渋沢栄一役)
作:大森美香
音楽:佐藤直紀
題字:杉本博司



幕末から明治を駆け抜けた実業家・渋沢栄一。豪農に生まれた栄一は、幕末の動乱期に尊王攘夷思想に傾倒する。しかし、最後の将軍・徳川慶喜との出会いで人生が転換。やがて日本の近代化に向けて奔走していく...